

はるか 悠

多気町郷土資料館だより

2025.1.1

111

たき



朝柄で生まれた米

伊勢錦

写真は勢和郷土資料館に展示されている「伊勢錦」という多気町朝柄で誕生したイネである。

江戸時代も終わりに近い嘉永三年（一八五〇年）、朝柄の岡山友清（一七八九〜一八七八、円形内の写真は友清の肖像画）は稲種「太和」から選出し、この伊勢錦を誕生させた。少ない種もみでも多くの収量が見込める優れた品種である。友清が信仰した民間宗教、不二道の信者のネットワークを通じて各地に広まった。大正時代の旧佐奈村役場文書の中にも、伊勢錦が佐奈地域で盛んに栽培されていた記録が残っている。しかし、多肥稲作が進み、茎が長い伊勢錦は新しい稲作技術に適応できなくなり、徐々に一般の農家では作られなくなっていたという。

展示品は、三重県農業研究所に保管されていた稲種を、昨年度栽培・収穫した貴重な伊勢錦である。今年度、御寄贈いただいたので、勢和郷土資料館に展示していたものと入れ替えをした。これを見ると誕生当時の伊勢錦の姿がよくわかる。茎が太くて長くてしっかりしている。穂も長く、粒数が多く付き、粒も大きい。心白米粒の中心にあり、白く濁って見えるデンプン質の部分が発現しやすいので酒米に適しているといい、今も伊勢錦の優れた特性に注目した郡内の酒造会社が酒米として特別に栽培している。

現在多気町で多く栽培されているコシヒカリを見慣れた眼には、伊勢錦がたいへん野性的で生命力あふれる力強いイネであると映る。

多気郷土資料館企画展

民具ッドデザイン

―昔のくらしに学ぶ―

令和7年

1月15日(水)～3月16日(日)

9時～16時 月曜・祝日休館

入館無料



ちよつとひとこと

昨年の『悠』一月号に掲載した五桂を詠んだ詩について、作者の故稲葉喜佐藏さん(五桂出身)と紹介者の山本重子さんへの感謝の気持ちで綴られたお手紙をいただきました。その一部を紹介いたします。

私も生まれは五桂で町内へ嫁ぎました。稲葉さんの「五桂の四季」と「ふるさと」を読ませてもらって、感動、感動、涙、涙でした。

光渡山には、小学校の頃、植物採集などで、何度も登りました。珊瑚寺では友達といろんな遊びをし、会式踊りは輪になって踊り、とても賑や

今回の企画展は、昔のくらしについて学ぶ小学3年生の社会科に対応した展示です。民芸運動の提唱者、柳宗悦が日常品に見出した「用の美」という語があります。生活の中で使われてきた道具には、先人たちの知恵と工夫が込められ、機能と形態の美しさが調和した優れたデザインが見られます。くらしを便利に、豊かにしたグッドデザインを昔の道具に探り、今のくらしを見直すヒントを学びます。

かでした。秋葉山では友達と何度も遊び、傘松と共に写真もとり、木登りをして山桃をとり、懐かしい思い出ばかり。楽しかったです。

友達にコピーを送ると、懐かしく、涙がとまらないくらい嬉しくて何回も読ませてもらったと言っていました。高齢になるほど、生まれ育ったふるさとが懐かしく、友達と遊び楽しかった沢山の思い出がよみがえります。稲葉さん、いい詩をありがとうございます。五桂出身の私達は誇りに思っています。

中瀬 紀子(土羽)

中学生 資料館の

仕事体験記

職場体験学習として、十一月六日・七日・八日の三日間、この多気郷土資料館で様々な体験をさせていただきました。収蔵庫で昔の道具や資料を見学させていただいたり、掛け軸のかけ方やくすし字の解読方法などを学ばせていただいたりなど、すべてが貴重で新鮮な体験ばかりでした。くすし字の解読では、変体仮名の形だけではなく、仮名どうしのつながりも意識しなければならず、変体仮名の一覧表を見ながらでも、とても難しい作業でした。

今回の職場体験では、主に資料整理作業と展示説明の作成をさせていただきました。資料整理作業では、今の多気町が形成される前にあった旧佐奈村役場の史料を、一日目は汚れを取り除き整理番号を付け、二日目はボランティアの方々と一緒に内容などを記録用のカードに記入させていただきました。その手順の中で難しかった項目は、年代の記入でした。史料の名前のように表紙に書いてあればすぐ見つけられましたが、そう

ではないものは中を少し読んで、古い記録と新しい記録を見つけ出しました。これには少し手間がかかりましたが、終わった時には達成感を感じられました。

展示説明の作成では、小学三年生の昔の道具の学習に向けて、黒電話の説明文を作成させていただきました。そのパソコンでの作業では、中学校の授業で使っている最中ですが、あまりうまく扱えませんでした。ですが、それなりにわかりやすい説明を作成できたと思います。

また、作業の合間には、資料整理のボランティアの方々のお話を聞かせていただいたり、もっておられた相可・射和の昔の町並みなどの写真を見せていただいたりし、地域の人との関わりも感じられました。短い間でしたが、この三日間での経験を将来に活かせるようにします。

多気中学校 二年

大西 優輝

中学生の職場体験は、当館にとっても資料館の仕事がもっと意味を再認識するありがたい機会となりました。(村田・村林)

「ちよつとひとこと」欄へのご投稿をお待ちしています。郷土資料館についてのご意見、郷土の歴史に関すること、昔の暮らしの思い出などなんでも結構です。400字詰め原稿用紙1枚程度でお願いします。